

「JENESYS2020」日中大学生古装ファッション交流

1. オンライン交流概要

【目的】

本プログラムは、日本と中国の大学生を対象に「日・中の伝統的な要素を取り入れたファッション」をテーマにコンテスト形式でのオンライン交流を実施し、両国の若者が双方の服飾文化と歴史への理解を深め、友情を醸成することを目的としました。中国では近年、大規模な漢服イベントが開かれるなど、若者の間で伝統衣裳を着たり、普段のファッションに取り入れることが流行していること、また、日本の多くの大学でも着物サークルが増え、和装に親しむ若者が増えていることを背景に企画、実施しました。

【参加者】1回目：中国大学生（同世代の青年を含む）9名、日本大学生（専門学生を含む）1名

2回目：中国大学生（同世代の青年を含む）43名、日本大学生（専門学生を含む）46名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数実績）
1回目 2022年 3月4日 東京都	【入賞者オリエンテーション】 ① 事業趣旨の説明 ② 3/10の交流日程の説明 ③ プレゼンテーション、ルールの説明	（参加者：中国側9名、日本側1名）
2回目 2022年 3月10日 東京都	【コンテスト】 テーマ： 「日・中の伝統的な要素を取り入れたファッション」 ① 開会、参加者紹介 ② 主催団体挨拶 ③ 応募全作品（82点）の紹介、審査方法の説明 ④ 入賞者による作品プレゼンテーション、質疑応答・コメント紹介 ⑤ 審査、審査結果発表、賞状贈呈 審査員による講評	「日本・中国の伝統衣装」をモチーフにした服装・コーディネート作品を募集し、事前審査で入賞者12名を決定しました。交流当日は、入賞者のプレゼンテーションに対して入賞者以外の日中の学生から質問やコメントを募ったところ「幻想的なデザインで、自分なりの考えがありますね」「日本の狩猟服をモードでスポーティーな服装に変化させるという斬新なアイデアに惹かれました」「ストーリー性のあるデザインなのに、理念がわかりやすい。素敵です」などのコメントがあり、入賞者たちは反響に驚きつつ、とても喜んでいました。参加学生（入賞者除く）と審査員の投票により1等2名、2等4名、3等6名を決定し、入賞者には後日、賞状と今回の応募作品を収録した Stylebook

		を贈呈しました。4名の審査員の講評では、「大胆でアイデアに溢れた作品を拝見し、現代の若者が伝統を受け継ぎ、クリエイティビティを発揮しようという信念を感じることができた」「ファッションは、形や模様、生地、着方など、いろいろなことに意味を持たせるが、それこそが文化。それを理解することが文化理解につながる」などの声が聞かれました。 （参加者：中国側 43 名、日本側 46 名）
--	--	---

2. 記録写真

	
2022 年 3 月 10 日【コンテスト】 入賞者と審査員等で記念撮影	2022 年 3 月 10 日【コンテスト】 実際に刺繍を見せながらプレゼンテーション

3. 中国学生の感想（抜粋）

◆ 香港浸会大学 学生

ちょうど中日国交正常化 50 周年にあたり、両国の若者が一堂に会して、自国の伝統的な服飾文化の美しさを紹介しあうこのイベントに参加できたことをうれしく思っています。伝統的な服飾は、その国や民族の歴史・文化の重み、自国の文化に対する自信を表しています。伝統的であるものは時代の流行でもあります。この交流会では、中日両国の伝統的なファッションを数多く見られただけでなく、伝統ファッションの要素と現代ファッションを組み合わせるという巧みなアイデアも見られ、いずれも伝統的服飾文化の継承と発展に貢献しています。出場者の作品は、いずれも精巧にデザインされ、工夫が凝らされていて、とても勉強になりました。平和と友好は発展の基礎であり、両国には長い文化交流の歴史があります。友好交流を深め、中日友好が長く続いていくよう祈っています。

◆ 長春工業大学 学生

このオンライン交流を通じて、中国と日本の文化の違いを知り、日本の服飾文化も学べて、双

方が素晴らしい交流を行うことができました。

◆ **長春工業大学 学生**

このオンライン交流では、日本の文化や、少数民族の文化を含む自国の文化への理解が深まり、デザインのアイデアを学ぶこともできました。先生方の講義はとてもプロフェッショナルで、私がまだ学んでいない専門知識をたくさん学ぶことができました。インスピレーションは、私たちの生活や好きなもの、更には両親からも得られるのだということがわかりました。今後、このようなイベントに参加する機会があればと思います。

◆ **長春工業大学 学生**

今回のオンライン交流で多くの優れたデザイン作品を見ることができ、これまでとは違った経験を積んで、大学生活をより豊かにすることができました。他の学生のデザイン作品を見て、これからの勉強生活でもより一層努力して、新しいものを作ろうという気持ちが湧きました。

◆ **山西メディア大学 学生**

まず、コロナ下でこのような有意義なイベントを催してくださった主催者の方々に感謝します。このようなファッション交流は今後も続けてほしいですし、オフラインのイベントとして実現できればよりよいと思います。テレビ会議には限界があり、不安定要素も多いので、出場者間や、ゲストと出場者の間にもコミュニケーションの障害がありました。また、出場者の作品の見せ方なども少し簡略化されている印象を受けました。早くコロナが収束して、オフラインでこのような古裝ファッション交流ができることを願っています。

◆ **華南理工大学 学生**

他校の学生や日本の学生の素晴らしいデザインを見ることができ、考え方の違いからも得るところがあり、またそのことで一人の日本人と友達になることができました。

4. **日本学生の感想（抜粋）**

◆ **文京学院大学 学生**

国外の方々との交流が中々ない状況下でこのような機会があって良かった。

◆ **大阪府立大学 学生**

自分なりの考えや思いを持って、それを表現することの大切さに気づきました。また、素敵な作品をたくさん拝見することができ、楽しかったです。中国の伝統的な衣装についてもお話をお聞きすることができ、興味深かったです。このような機会があればまたぜひ参加したいです。ありがとうございました。

◆ **文化学園大学 学生**

日本と中国、それぞれの文化からインスピレーションを受けた作品を沢山見ることができ、楽しい時間だった。柔らかな色味の日本スタイルと鮮やかな色味の中国スタイルは、同じアジア圏でもそれぞれの国色が現れているようでした。

◆ 青山学院大学 学生

二つ興味深い点がありました。一つは学生の皆さんがモチーフに選ぶ自国の文化、もう一つは服装という媒体を通じた表現です。様々な時代や作品が取り上げられることで中国の歴史や民族の層の厚さを実感しましたし、衣服という限られた空間の中で巧みに文化を形にする同世代の方の技術や知識にも感嘆しました。

◆ 愛知大学 学生

日本の伝統衣装だけでなく中国の伝統衣装をモチーフとした衣装が多く見られてよかった。また衣装を作るだけでなく作成者自身の考えを入れて作られた衣装に独自性を感じられてよかった。

◆ 早稲田大学 学生

漢服も着物も、自分では思いつかないような新しい着こなしが多く、自分の中の「こうあるべき」という価値観が変わったように思う。

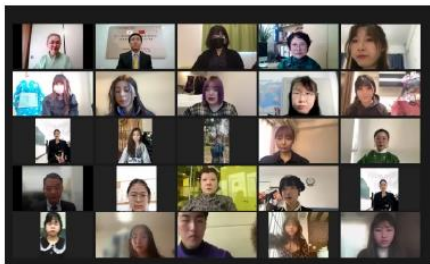
◆ 熊本学園大学 学生

日本や中国、その付近の地域の文化を取り入れたアイデアに触れる機会をいただけて貴重な体験になりました。

◆ 名古屋外国語大学 学生

入賞者の皆様の個性豊かでオリジナリティ溢れる作品を見て、着てみたいと思ったり、私もファッションやそれ以外で日本と中国の文化を融合させたものを考えたり作ったりしたいと思うようになりました。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

 中日大学生古装ファッション交流、オンラインで開催 10日、オンラインで開催された中日大学生古装ファッション交流。(北京＝新華社配信) 今回のイベントには、ファッションデザインに興味のある中日の若者から約80点の作品の応募があった。審査を経て展示された入賞作品12点の中から、最終的に1等賞2人、2等賞4人、3等賞6人が決定した。両国の専門家審査員、作品の応募者代表、大学生や専門学校生ら約100人が参加した。(記者/邱虹)	 双方の青年代表や審査員の最終発表を経て、一等賞2名、二等賞4名、三等賞6名が選ばれた。26年前に両親が結婚式で手にした花束からインスピレーションを得て、中国でおめでたいとされる赤い色と「双喜紋」の服を取り入れたドレスを手掛けた熊手園さん(嘉應学院大学)、町を歩く時にも着れる「世界で一つだけの服」をコンセプトにデザインした原口彩海さん(ヒロ・デザイン専門学校)が一等賞に輝きました。 審査員を務めた文化学園大学教授で、和服文化研究所所長の近藤尚子さんは、コロナ禍にも興けずに交流会が開催されたことの意義を高く評価し、「ファッションは形、色、模様、生地、響きなどに意味を持たせており、それが文化である。それを理解することが文化の理解につながる。とても楽しかった」と審査の過程を振り返りました。 同じく審査員を務めた中国服飾デザイナー協会顧問で、ファッションデザイナーの黄宝琴さんは、「参加者それぞれが、自国あるいは相手国の伝統衣装に対する理解を自分の作品で表現している」と話し、中日国交正常化50周年の年に伝統衣装をテーマにした交流行事の意義を高く評価しました。 (取材・撮影：王小燕、校正：星和樹)
2022年3月11日(新華社通信) ○中国国際青年交流センター公益合作部の王希	2022年3月11日(中国国際放送局) ○26年前に両親が結婚式で手にした花束から

宏（おう・きこう）部長は、両国の青年が今回のイベントを通じてお互いの国の伝統的な服飾の独特の魅力とスタイルをアピールし、人的・文化的交流の推進と新時代にふさわしい中日関係を構築するために良好な雰囲気醸成することを期待すると述べた。	インスピレーションを得て、中国でおめでたいとされる赤い色と「双喜紋」の図柄を取り入れたドレスを手掛けた唐子涵さん（重慶師範大学）、町を歩く時にも着られる「世界で一つだけの振袖」をコンセプトにデザインした原口彩海さん（ヒロ・デザイン専門学校）が一等賞に輝きました。
	
2022 年 3 月 12 日（人民中国） 文化学園大学の近藤教授は「皆さん『古装ファッション』のとらえ方がバラエティーに富んでいました。ファッションは、形や模様、生地、着方など、いろいろなことに意味を持たせますが、それこそが文化だと思います。それを理解することが互いの文化理解につながる」と述べた。	

実施団体名：公益財団法人日中友好会館